


令和元年度学校評価表

島根県立出雲高等学校

【学園の指標】
(1) 自主自立の精神に富み、気品高き自治の学園
(2) 誠実、勤勉にして、社会的秩序を重んずる学園
(3) 職員、師弟、校友相睦み合う、友愛協和の学園

(1)自主自立の高校生活【自主自立】	①将来の目標を明確にし、その実現に向けて努力する。 ②出雲高校生としての誇りを持ち、品位ある言動を心がける。 ③心身の健康の保持・増進に努める。
(2)活力に満ちた高校生活【文武両道】	①日々の授業や探究学習に積極的に取り組むとともに、家庭学習の充実をはかる。 ②部活動・生徒会活動・学校行事等に積極的に参加し、心身の成長を図る。 ③社会課題や先端研究等に触れるチャンスを生かし、未来に向かって行動を起こす。
(3)心のふれあう高校生活【友愛協和】	①気持ちの良い挨拶をこころがけ、豊かな人間関係を築く。 ②友人や周囲の人を思いやる心を培うとともに、互いの存在を認め合う。 ③さまざまな機会をとりえ、教職員、地域や国内外の人々と触れ合う機会を持つ。

出雲高校 キーワード&スローガン
「自立」「協働」「挑戦」

やってみなはれ!

評価の指標(肯定的評価値の割合) A:80%以上(満足できる) B:60~79%(もう少し) C:50~59%(改善が望ましい) D:49%以下(改善が必要)

教育目標	領域	目標(評価項目)	目標達成のための施策	主たる担当分掌	評価指標	自己評価				取組状況と課題	改善策	学校関係者評価		
						目標値 [a] %	評価値 [b] %	達成指数 [b/a]	平均評点 [総和/4]			評価	総合評価	コメント
地域・社会のリーダーとして貢献できる人材の育成	環境整備	○学びやすい環境の構築 ○働きやすい環境の構築	(1)教育目標及び重点目標の達成に向けた教育活動が行われている。	管理職	肯定的評価の割合	80	100	125%	3.5	A	・目標の達成のために全教職員が連携して取り組んだ。教職員の自己評価では肯定的評価が昨年以上に高まり、高い意識をもって目標達成に取り組んだと考える。	・来年度は、教育目標及び重点目標を学校外の主体を含むコンソーシアムで共有し、協働しながら教育活動が展開されるよう運営しなければならない。	A	・学年を超えた情報共有を今以上に図ることで、全教職員が学校の全体像を把握し、学校全体で教育活動に取り組むことにつなげて欲しい。例えば、学年通信を他の学年会でも閲覧するなどはどうか。
			(2)PTA活動やPTAの広報等を通して保護者との連携を図る。	総務		80	98.2	123%	3.4	A	・PTA役員交代の時期を早めたことにより、これまでに比べ引き継ぎがスムーズに行えた。	・今後もPTA役員との連携を密にして、より円滑に運営していきたい。	A	・職員朝礼で学年主任同士の席を近づけるなどの工夫は、良い取り組みだと思う。
			(3)ホームページにより保護者・地域への広報活動を行う。	図書文化情報		80	96.4	121%	3.4	A	・ホームページは、頻りに更新してきた。閲覧総数も多く、健全に運営していると判断している。	・来年度は久徴会とも協力し、HPの機能を高める予定である。	A	・働き方改革を推進して欲しい。
			(4)生徒の健全な教養を育成するために適切な資料を整え、利用しやすい図書館運営を行う。	図書文化情報		80	98.2	123%	3.6	A	・図書館の利用は授業でも授業外でも活発である。課題としては図書館が空いている時間が少なく、課題研究以外の授業で利用しにくいことがあげられる。	・課題研究では常に図書館使用とせず、時期や内容によっては、他の教室利用も考慮しながら調整し、他の授業でも図書館が利用しやすいようにしていきたい。	A	・教員同士のOJTは、負担感もあるかもしれないが、メリットも大きい。
			(5)学習活動に即応できるICT機器利用の環境を整える。	保健		80	93.2	117%	3.5	A	・視聴覚室の機器のメンテナンスに関する要望があったので、今年度中に対処します。	・ICT機器の使い勝手の一層の向上を目指したい。そのために、不備や故障などについての声を拾い上げる仕組みを考えていきたい。	A	・久徴園・平田植物園の整備は進んでいるようだが、例えばテニスコート北側のトイレなどでできれば改修した方が良いと思うものは他にもたくさんあるので着実に進めてもらいたい。
			(6)校内美化が保てるよう、積極的に清掃活動を行う。	事務		80	79.7	100%	3.0	B	・生徒の掃除に対する取り組みには課題が多い。先生方に監督を複数箇所お願いしているせいか、十分に指導が行き届いていない。	・複数箇所の清掃監督もできるだけ足を運ぶようお願いしたい。また、生徒に指導しやすいように、廊下・外庭などを掃除する際のポイントを引き継げるよう工夫したい。	B	・生徒の行う清掃活動に関して教員の自己評価が低いようだ。
			(7)費用対効果考えた効率的な予算執行を行う。	生徒		80	100	125%	3.6	A	・各分掌、教科との連携を図り、予算要望調査や教育環境の変化を把握し、より高い効果が得られるよう計画的で効果的な予算執行ができた。	・限られた予算なので、今後も費用対効果や優先順位に留意し、適正な予算執行に努めていく。	A	
	規範意識の定着 ○規範意識の定着 ○基本的な生活習慣の確立	○豊かな人間性の育成	(8)生徒が主体的に取り組めるような生徒会運営を行う。	生徒	80	98.3	123%	3.5	A	・久徴祭では生徒会が中心となって主体的に活動ができた。生徒会担当教員への負担が大きい。役割を分担することができた。一方、各部署との連携不足な面もあった。	・生徒主体の活動になるよう引き続き支援を行う。教員の役割分担を明確にし、業務がスムーズに行えるよう連携を図る。	A	・保護者は最近のいじめの状況(SNSによるものが多いなど)を知りたいと思う。生徒部通信とかを作成して発信してはどうか。	
			(9)生徒が主体的に読書活動に取り組み、能動的に資料活用ができるよう支援する。	図書文化情報	80	93	116%	3.5	A	・昨年に引き続き、生徒の「図書館の利用しやすさ」に関して高い評価をいただいた。	・図書館からの情報提供を継続する。また、探究活動や教科の学習活動も引き続き積極的に支援する。	A		
			(10)人権・同和教育に係るホームルーム活動や講演会等の学習をとおして、人権感覚を育成し、自他の人権を尊重しあう意識の醸成を図る。	生徒	80	98.2	123%	3.3	A	・ホームルーム活動や講演会など計画どおりに実施できた。活動を通して差別を許さない態度が養われた。	・次年度に向けて全体計画を検討していく。	A	・県が実施した高校魅力化評価システム診断結果によると、「失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある」、「将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる」と答えた生徒が多く見られる。これは、先生方が表面的でなく信頼されている証拠ではないか。	
			(11)いじめに関するアンケートやアンケートQ&A等を活用し、いじめを許さない意識を醸成する。	生徒	80	96.6	121%	3.5	A	・年4回のいじめに関するアンケートを実施する予定(3回実施済)。いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、教職員の情報交換を行い、いじめ防止に努めた。組織的にいじめを認知し、いじめへの対策を講じた。また、教職員研修を行った。	・いじめに関するアンケートでは、生徒が安心して相談ができる体制を検討していく。アンケートのみならず、様々な教育活動において生徒観察を組織的に進めるよう教職員の連携を図る。	A		
	確かな学力の養成	○基礎・基本の定着 ○主体的な学習態度の育成	(12)服装検査や街頭指導、集会指導等のあらゆる機会をとりえて、基本的生活習慣の確立にむけた指導を行う。	生徒・保護者アンケートの結果を参考にした	80	89.5	112%	3.1	A	・携帯電話違反使用や服装頭髪指導などで違反者には指導を行ったが、全体への啓発活動の取組はあまり行えなかった。	・校内ルールの遵守など教職員の共通理解を図り、指導を継続していく。携帯端末機器の扱いについて検討していく必要がある。	A	・学校で年度当初につくられた部活動方針の終了時刻のルールが守られていないと感じている生徒がいるようだ。	
			(13)部顧問会や大会・遠征等の支援を行い部活動の活性化を図るとともに、規律ある活動に向けた指導を徹底する。	教職員自己評価における肯定的評価の割合	80	92.6	116%	3.1	A	・年度当初に申し合わせ事項の教職員の共通理解を図った。部活動代表者会議(生徒)を定期的に行い、生徒への申し合わせ事項の徹底を図ったが、守られていないことがある。	・継続して申し合わせ事項の教職員の共通理解と定期的な生徒への周知・指導を合わせて行っていく。	A	・学校前の坂を自転車に乗って下りるのをたまに見かける。危険であり、しっかりと指導して欲しい。	
			(14)街頭指導や自転車点検等の施策を行うことで、生徒の交通安全指導を徹底する。	キャリア教育	80	94.8	119%	3.3	A	・年度当初に自転車点検を実施した。1、2学期に街頭指導を行い、交通安全への意識向上の啓発活動を行った。他方、自動車での送迎について近隣の住民から指摘をうけることもあった。	・交通安全ルールの遵守徹底を図っていく。交通安全の一員であることを自覚させ、地域社会との共生をめざし、指導を工夫していく。保護者への協力依頼も必要と感じる。	A		
	進路目標の育成 ○望ましい職業観の育成 ○能力・適性の開発	○能力・適性の開発	(15)各教科と連携して指導方法の研究を行い、教員の指導力向上と教科指導の充実を図る。	教務	80	98.3	123%	3.4	A	・教科主任会において、教科目標・授業改善・評価など様々な内容について意見交換、検討を行い、教科間の連携を図ってきた。また、授業アンケートの実施、授業互見、研究授業などを通じ、授業改善の推進に努めた。	・各教科がキャリア教育部と連携しながら、大学入試共通テストや新教育課程への対応について研究していきたい。	A	・1・2年生の土曜補講を今年取りやめたことに対し、きちんとした分析は必要。	
			(16)土曜補講や休日の自習開放を行い、自学自習の意識の高揚と積極的な学習参加の姿勢の醸成を図る。	キャリア教育	80	92.9	116%	3.4	A	・今年度より、1・2年生の土曜補講を中止した。	・中止の影響についての検証をする必要がある。	A	・互見授業や教科主任会の実施、「思考・判断・表現力」を意識した各種試験問題作成は、新しい教育課程実施に向け今後も続けて欲しい。	
			(17)3年生の放課後補講を適切に実施し、生徒個々の進路志望の達成に向けた学力向上に役立てる。	キャリア教育	80	96.4	121%	3.4	A	・計画とおりに実施することができた。高い評価を得ることができた。	・補講(土曜含む)において、補習科生と3年生が同じ授業を受講する企画を計画的に実施できないか検討したい。	A	・課題研究は、面白い気づきもあったが、もう一歩踏み込むと良くなるものが見られる。取り組むテーマをしっかりと固め、より達成感のあるものに磨き上げてもらいたい。1つでも多く、発表で終わりでなく行動にまで高められるものになって欲しい。	
			(18)1、2年生が受験する新テストに関わる情報を研究・整理し、教職員・生徒・保護者に発信する。	教育開発	80	94.3	118%	3.3	A	・新テストに関わる情報提供を教職員・生徒・保護者に行うことができた。	・引き続き、整理して情報提供をしていきたい。	A		
			(19)3年間を見通した進路指導計画のもと、適切な情報提供により、生徒・保護者の進路意識の高揚を図る。	キャリア教育	80	100	125%	3.5	A	・計画とおりに実施することができた。高い評価を得ることができた。	・データ分析、進路資料等毎年定着してきたものはあるが、今後新しい分析等にも取り組んでいきたい。	A	・GRITizmノートの評価が学年が進行するにつれ高くなっている。活用がすすんでいることが窺える。	
	安全対応能力の向上	○危機管理 ○危機回避・対応能力の向上	(20)進路希望調査、PDGzセミナー、久徴センターイベントなどを行い、キャリア教育に対する意識の高揚に努める。	キャリア教育	80	96.6	121%	3.5	A	・概ね予定通り開催できた。今年度から始まったPDGzセミナーは、分掌間の連携の難しさがあったので、次年度に生かしたい。	・PDGzセミナーは分掌間の連絡を密にしていきたい。新企画としてインターンシップを計画している。久徴センターイベントは参加できなかった生徒のため日ビデオ上映を検討している。	A	・PTA土曜講座や保護者面談において、C:検討すべきと言う意見も若干ある。多様な保護者のニーズに応えるのは難しいことかもしれないができるだけ応えてもらいたい。	
			(21)個別添削、小論文指導や面接指導を組織的に進め、進路実現を支援する。	教育開発	80	94.5	118%	3.4	A	・今年より、論文指導だけでなく、面接指導も全教員で実施することにした。より多くの教員による指導につながった。	・現在受験の真っ最中であり、効果や課題は今後明らかになると思われる。問題点があれば、それを分析し次年度に生かしたい。	A	・社会人になったら文系、理系は関係なくなる。生徒には、課題研究などで文理を超えたことにも取り組んで欲しい。	
(22)各種研修や課題研究などを通してSSH事業と次期学習指導要領を見据えた教育プログラムの開発、科学系人材・グローバル人材育成のための取り組みの充実を図る。			教育開発	80	96.5	121%	3.5	A	・全校指導体制で探究学習を推進することができおり、次期学習指導要領に向けたモデルの役割を果たしている。 ・各科目等においては「指導方法の確立」、「年間指導計画の甘さ」、「一部の教員への負担」といった問題がある。 ・新規「人財育成推進事業」も活用し、これまでに劣ることのない取組をすることができた。 ・特にトップサイエンティストの育成という観点からは、十分な掘り起こしができていない。	・よりよい指導方法、指導計画の確立に向けて、既存のテキストやマニュアルをより使いやすいものに改訂しながら、前進を図りたい。 ・全校指導体制がよりよいものとなるよう、各教科等との連携を図りたい。 ・自ら主体的に科学的探究活動に取り組む人材をさらに増やすため、より外部との連携を強化した事業等を進めていきたい。	A	・中学での学習のやり方が、過去と比べ探究型が減り、ドリル形式が増えているように感じる。出雲高校からもっと探究学習の良さを示してもよいのではないかと。暗記ではなく「なぜ」と考えさせたい。		
(23)危機管理マニュアルにより事故発生時に迅速かつ適切に対応できる体制を整える。			管理職	80	96.3	120%	3.3	A	・5月にそれまでであった学校危機管理マニュアルを訂正し、各職員室に配置しすぐに使用できるようにした。また、悪天候などの際、速やかな指示や対応を行うことを心につけた。	・今後も危機管理マニュアルの定期的見直しや緊急時の生徒・保護者あての緊急メールの確実な配信を行ってきたい。	A			
(24)学校防災計画を作成し、計画的避難訓練を実施することで生徒・教職員への周知徹底を図る。			総務	80	100	125%	3.4	A	・避難訓練、防災HRを計画的に行った。避難訓練では保健部と連携し、配慮が必要な生徒への対応を進めた。	・避難訓練については、すべての生徒にとって、より実践的なものとなるよう、さらに検討を重ねる。	A	・新型コロナウイルス感染拡大の防止策には学校として適切に対応して欲しい。また、予防に向けた注意喚起を徹底し生徒の安全確保に努めて欲しい。		
(25)施設設備の安全点検を計画的に実施し、安全な学校環境の確保を図る。	保健	80	96.6	121%	3.5	A	・施設設備の安全点検を計画的に実施した。点検結果については、事務室と連携してできるだけ速やかに対応している。	・点検時期に限らず、必要と判断されたときには、随時実施していきたい。	A					